

第31回

二宮和子 クラリネット リサイタル

《早春の室内楽》

Kazuko Ninomiya
Clarinet Recital

Series XXXI

2019年2月16日(土)

14:00開演

東京文化会館
小ホール

全席自由:一般 ¥5,000

学生 ¥4,000

<共演>

ピアノ:藤井一興

ヴァイオリン:徳永二男

ヴィオラ:川崎和憲

チェロ:岩崎 洸

クラリネット:横川晴晃

<プログラム>

C.サン・サーンス

ソナタ 作品167

C. Saint-Saëns : Sonate Op.167 (Cl, Pf)

三善 晃

「彩夢」(2Cls)

A. Miyoshi : Réve Colorié

A. ハチャトゥリアン

トリオ

A. Khachaturian : Trio (VI, Cl, Pf)

P. ワインガルトナー

クラリネット五重奏曲

P. Weingartner : Clarinet Quintet (Cl, VI, Vla, Vlc, Pf)

<後援>

一般社団法人 日本クラリネット協会 桐朋学園音楽部門同窓会

<マネジメント> (株) インターミュージック・トーキョウ

<チケットお取り扱い>

(株) インターミュージック・トーキョウ Tel 03-3475-6870

チケットぴあ Tel 0570-02-9999 (Pコード 133-217)

東京文化会館チケットサービス Tel 03-5685-0650

Kazuko Ninomiya Clarinet Recital Series XXXI



二宮 和子 (Kazuko Ninomiya) クラリネット

桐朋学園大学音楽科卒業。フランス政府給費留学生として渡仏。世界最高峰の音楽家、故ジャック・ランズロ教授に師事。フランス国立ルーアン音楽院を首席で卒業。洗練されたフランス音楽の伝統を継承する演奏家として注目を集め、ルーアンを中心に演奏活動後、帰国。これまでに30回のソロリサイタルを開催。フランス近現代の作品はもとより、世界の「知られざるクラリネット名曲」を意欲的に紹介。本邦初演や委嘱作品初演曲は29曲に及び、その初演曲の数々が、いまや日本クラリネット界のスタンダード曲となっている。室内楽でも「東京アーツ・アンサンブル」「Play the Music」等で活発に活動。帰国後も、海外7カ国で公演。国際コンクール審査員も多数歴任。'89年にイギリスで出版の「今日のクラリネットの巨匠達〜世界55人」に選ばれる。日本クラリネット協会・常任理事、桐朋学園大学(音楽部門)同窓会会長も務める。'18年 第四回 ジャック・ランズロ国際クラリネットコンクール実行委員長を務め成功をおさめる。



藤井 一興 (Kazuoki Fujii) ピアノ

東京芸藝大学3年在学中に渡仏し、パリ国立高等音楽院を作曲科、ピアノ伴奏科共に1等賞で卒業。パリ・エコール・ノルマルでピアノ科を高等演奏家資格第1位で卒業。作曲をO.メシアン、ピアノをY.ロリオ、M.クルチオに、ピアノ伴奏をアンリエット・ビュイグ＝ロジェの各氏に師事。ヨーロッパや日本国内でのソロ・リサイタル、室内楽、オーケストラとの共演のほか、フランス国営放送局、NHKなどで多くの録音・録画を行うなど幅広い活動を行っている。作曲家としても多くの作品が演奏・録音されている。また、多くの国際コンクールで審査員を務めている。東邦音楽大学大学院教授、東邦音楽総合芸術研究所教授、桐朋学園大学特任教授、東京藝術大学講師。



徳永 二男 (Tsugio Tokunaga) ヴァイオリン

ヴァイオリニストの父 徳永 茂および鷺見三郎氏に師事。桐朋学園にて、齋藤秀雄氏に師事。'66年、文化庁在外派遣研修生としてベルリンへ留学、'76年、NHK交響楽団のコンサートマスターに就任。'94年にNHK交響楽団を退団しソロ、室内楽に専念。鎌倉芸術館ゾリステンを主宰、JTアートホール室内楽シリーズの音楽監督、宮崎国際音楽祭の総合プロデューサーを経て'11年からは音楽監督を務める。ソリストとしては、モンテリオール交響楽団やイギリス室内管弦楽団など、国内外の著名オーケストラからたびたび招かれている。'08年からは「徳永二男の挑戦」と題し、毎年1回ずつのリサイタル・シリーズに取り組む。近年は指揮活動もスタートさせ、好評を博している。



川崎 和憲 (Kazunori Kawasaki) ヴィオラ

'74年芸高を経て東京藝術大学に入学。在学中の'77年には東京フィルに副首席奏者として入団、また同年の民音コンクール室内楽部門では、一位なしの二位に入賞。'78年同大学院に進み、'80年同大'83年にゼフィルス弦楽四重奏団を結成、'88年から'91年のファイナルコンサートまでカザルスホールのレジデンス・クアルテットとして活躍した。'03〜'06年はエレオノーレ弦楽四重奏団、'07〜'09年はプレアデス弦楽四重奏団の一員として活動した。現在、東京藝術大学教授。



岩崎 洸 (Ko Iwasaki) チェロ

日本音楽コンクール第一位、特賞。桐朋学園高校を経て、ジュリアード音楽院に留学。斎藤秀雄、レオナード・ローズ、ハーヴィー・シャピロ、パブロ・カザルスの各氏に師事。'65年ニューヨーク、カーネギーリサイタルホールでデビュー。カサド、チャイコフスキー等の国際チェロ・コンクールに上位入賞、後アンドレ・プレヴィンに認められ、ロンドン交響楽団と共演。'71年芸術選奨文部大臣新人賞、及び現代日本チェロ名曲体系により芸術祭レコード大賞を受賞。マルボロ、アスペン、ロッケンハウスを初めとして、各国の音楽祭に参加。現在、アメリカに本拠を置きながら世界各地で演奏を続けるかたわら、並びに桐朋学園大学特認教授、大阪音楽大学客員教授として後進の指導も続けている。



横川 晴児 (Seiji Yokokawa) クラリネット

'68年に渡仏、ジャック・ランズロ、ユリス・ドゥレクリューズ他に師事。ルーアン音楽院、パリ国立高等音楽院をともにプルミエ・プリを得て卒業後、フランス国内で演奏活動を行う。帰国後東京フィルハーモニー交響楽団を経て'86年にNHK交響楽団首席奏者に就任。ソリストとしても、N響定期公演はじめ国内外のオーケストラとたびたび共演。室内楽の分野でも多くの音楽祭・演奏会で著名なソリストたちと共演。ジュネーブ国際コンクールはじめ、世界のコンクールで審査員を務める。近年は指揮者としても活動している。元国立音楽大学客員教授。軽井沢国際音楽祭音楽監督。トート音楽院学院長、習志野シンフォニエッタ千葉芸術監督。ピュッフェ・クランポン社専属テスター。



EXCELLENCE



〈ピュッフェ・クランポン〉
BUFFET CRAMPON

〈ピュッフェ・クランポン〉は高い技術を持った歴史ある木管楽器製造企業として、名実ともにその名を保持しています。1825年の創業以来、特別なノウハウを持つブランドとして発展してきました。その伝統は「Made in Europe」の製品として守られ続けています。200年近くもの間、多くの芸術家が〈ピュッフェ・クランポン〉とともに美の発見と音楽への情熱を追求し続けてきました。〈ピュッフェ・クランポン〉はその時代時代における最高峰の音楽家と対話を重ね、「伝統の保持」と「改革」、「知識の伝承」と「新たな創造」、「歴史」と「未来」という相反するものの結合を理念として、管楽器における世界的象徴となるべく歩み続けています。

CLARINET / SAXOPHONE / OBOE / FRENCH BASSOON